



2019年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年2月4日

上場会社名 浜松トニクス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6965 URL <https://www.hamamatsu.com/jp/ja/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 晝馬 明
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 森 和彦 TEL 053-452-2141
 四半期報告書提出予定日 2019年2月8日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第1四半期の連結業績（2018年10月1日～2018年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第1四半期	35,700	4.1	6,017	△1.8	6,205	△1.6	4,871	4.9
2018年9月期第1四半期	34,282	14.3	6,129	42.5	6,302	32.0	4,643	28.2

(注) 包括利益 2019年9月期第1四半期 3,096百万円 (△43.5%) 2018年9月期第1四半期 5,485百万円 (△20.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第1四半期	31.47	—
2018年9月期第1四半期	29.58	—

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2018年9月期第1四半期については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第1四半期	242,220	193,980	79.8
2018年9月期	244,914	193,985	78.9

(参考) 自己資本 2019年9月期第1四半期 193,301百万円 2018年9月期 193,317百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」を当第1四半期連結会計期間の期首から適用したため、2018年9月期につきましては遡及適用後の数値を記載しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	17.00	—	20.00	37.00
2019年9月期	—	—	—	—	—
2019年9月期（予想）	—	20.00	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年9月期の連結業績予想（2018年10月1日～2019年9月30日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	74,900	2.5	13,400	△10.3	13,700	△9.6	10,300	△4.7	66.54
通期	150,400	4.2	27,500	0.9	28,000	△0.3	21,200	△0.1	136.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料8ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年9月期1Q	165,011,568株	2018年9月期	165,011,568株
② 期末自己株式数	2019年9月期1Q	10,213,968株	2018年9月期	10,213,968株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年9月期1Q	154,797,600株	2018年9月期1Q	156,970,553株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(日付の表示方法の変更)

2019年9月期 第1四半期決算短信より、日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、欧米を中心とした海外の景気回復を背景に企業収益が改善する中で設備投資が増加し、個人消費も持ち直すなど、緩やかな景気回復基調となりました。しかしながら、米国と中国の通商問題をめぐり、中国の景気は持ち直しの動きに足踏みがみられ、米国の景気への影響も懸念されるなど、景気の先行きは依然として予断を許さない状況で推移いたしました。

このような状況におきまして、当社グループは、独自の光技術を活かした研究開発及び将来に向けた積極的な設備投資を継続することで、売上高、利益の確保に努力してまいりました。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの経営成績につきましては、売上高は35,700百万円と前年同期に比べ1,417百万円(4.1%)の増加となりました。一方、利益面につきましては、営業利益は6,017百万円と前年同期に比べ112百万円(1.8%)の減少、経常利益は6,205百万円と前年同期に比べ97百万円(1.6%)減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,871百万円と前年同期に比べ228百万円(4.9%)の増加となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

[電子管事業]

光電子増倍管は、高エネルギー物理学実験等の学術向けの売上げが減少いたしました。しかしながら、血液分析などの検体検査装置向けが堅調に推移いたしました。また、油田探査装置向けの売上げも増加いたしました。

イメージ機器及び光源は、産業分野におきまして非破壊検査装置向けのマイクロフォーカスX線源の売上げが増加いたしました。また、シリコンウエハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジンの売上げも増加いたしました。

この結果、電子管事業といたしましては、売上高は14,100百万円(前年同期比9.1%増)、営業利益は4,914百万円(前年同期比9.6%増)となりました。

[光半導体事業]

光半導体素子は、産業分野におきまして、産業用ロボット等の制御などFA(ファクトリーオートメーション)分野におけるフォトダイオード及びLEDの売上げが減少いたしました。しかしながら、医用分野におきまして、主力のシリコンフォトダイオードが顧客ニーズに的確に答えている点などを評価され、国内外における医用装置向けを中心に好調に推移したほか、自動車の車内ネットワーク通信用のフォトICが売上げを伸ばしました。

この結果、光半導体事業といたしましては、売上高は16,717百万円(前年同期比2.8%増)、営業利益は5,322百万円(前年同期比0.8%減)となりました。

[画像計測機器事業]

画像処理・計測装置は、国内のX線検査用ラインセンサカメラが売上げを伸ばしました。しかしながら、生命科学やバイオ分野で用いられるデジタルカメラの売上げが北米を中心に減少いたしました。

この結果、画像計測機器事業といたしましては、売上高は3,901百万円(前年同期比5.6%減)、営業利益は665百万円(前年同期比5.1%減)となりました。

[その他事業]

半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

当セグメント(その他)の売上高は980百万円(前年同期比0.6%増)、営業損失は141百万円(前年同期は営業損失62百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

流動資産の主な変動は、たな卸資産が1,992百万円増加したものの、未収入金（流動資産その他）が2,902百万円、受取手形及び売掛金が642百万円それぞれ減少したことなどから、流動資産は前連結会計年度末に比べ1,825百万円減少しております。

固定資産の主な変動は、有形固定資産が建物及び構築物の減少などにより483百万円、無形固定資産が326百万円それぞれ減少したことなどから、固定資産は前連結会計年度末に比べ868百万円減少しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,693百万円減少し、242,220百万円となりました。

流動負債の主な変動は、預り金（流動負債その他）が1,342百万円増加したものの、賞与引当金が3,109百万円、未払法人税等が1,431百万円それぞれ減少したことなどから、流動負債は前連結会計年度末に比べ2,725百万円減少しております。

固定負債の主な変動は、退職給付に係る負債が60百万円増加したことなどから、固定負債は前連結会計年度末に比べ37百万円増加しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間末の負債合計は前連結会計年度末に比べ2,688百万円減少し、48,239百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより利益剰余金が1,770百万円増加したものの、為替換算調整勘定が1,089百万円、その他有価証券評価差額金が703百万円それぞれ減少したことから、当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ5百万円減少し、193,980百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期の第2四半期（累計）及び通期の連結業績予想につきましては、2018年11月12日付で公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、業績予想の前提となる為替レートにつきましては、1米ドル=105円、1ユーロ=125円を想定しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	74,458	74,037
受取手形及び売掛金	35,914	35,271
商品及び製品	8,874	9,456
仕掛品	17,933	18,404
原材料及び貯蔵品	7,677	8,616
その他	5,501	2,748
貸倒引当金	△162	△164
流動資産合計	150,197	148,371
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	34,117	33,604
機械装置及び運搬具(純額)	12,364	12,190
工具、器具及び備品(純額)	4,359	4,378
土地	16,789	16,808
リース資産(純額)	272	276
建設仮勘定	3,826	3,987
有形固定資産合計	71,730	71,246
無形固定資産		
顧客関連資産	2,634	2,503
その他	3,644	3,448
無形固定資産合計	6,278	5,951
投資その他の資産		
投資有価証券	4,158	3,259
繰延税金資産	10,254	10,585
その他	2,314	2,824
貸倒引当金	△19	△19
投資その他の資産合計	16,708	16,650
固定資産合計	94,717	93,849
資産合計	244,914	242,220

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,101	5,662
電子記録債務	6,266	6,011
短期借入金	1,662	1,865
1年内返済予定の長期借入金	3,178	3,175
未払法人税等	2,892	1,460
賞与引当金	5,138	2,028
その他	13,838	15,147
流動負債合計	38,078	35,352
固定負債		
長期借入金	3,512	3,469
厚生年金基金解散損失引当金	529	526
退職給付に係る負債	7,393	7,454
その他	1,414	1,436
固定負債合計	12,850	12,887
負債合計	50,928	48,239
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,928	34,928
資本剰余金	34,672	34,672
利益剰余金	142,321	144,091
自己株式	△20,795	△20,795
株主資本合計	191,126	192,897
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,545	842
為替換算調整勘定	1,259	169
退職給付に係る調整累計額	△614	△607
その他の包括利益累計額合計	2,190	403
非支配株主持分	668	679
純資産合計	193,985	193,980
負債純資産合計	244,914	242,220

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
売上高	34,282	35,700
売上原価	16,663	17,294
売上総利益	17,618	18,406
販売費及び一般管理費	11,489	12,389
営業利益	6,129	6,017
営業外収益		
受取利息	6	38
投資不動産賃貸料	33	18
為替差益	70	—
持分法による投資利益	21	88
その他	94	129
営業外収益合計	226	274
営業外費用		
支払利息	16	13
不動産賃貸費用	21	25
為替差損	—	23
その他	15	23
営業外費用合計	53	86
経常利益	6,302	6,205
特別利益		
固定資産売却益	2	21
特別利益合計	2	21
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	3	4
厚生年金基金解散損失引当金繰入額	534	—
特別損失合計	539	4
税金等調整前四半期純利益	5,765	6,222
法人税等	1,104	1,334
四半期純利益	4,661	4,887
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	15
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,643	4,871

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)
四半期純利益	4,661	4,887
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	308	△703
為替換算調整勘定	481	△1,102
退職給付に係る調整額	32	6
持分法適用会社に対する持分相当額	1	8
その他の包括利益合計	823	△1,791
四半期包括利益	5,485	3,096
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,455	3,084
非支配株主に係る四半期包括利益	29	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2017年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	12,920	16,255	4,132	33,308	974	34,282	—	34,282
セグメント間の内部売上高又は振替高	436	232	3	671	131	802	△802	—
計	13,356	16,487	4,136	33,980	1,105	35,085	△802	34,282
セグメント利益又は損失(△)	4,483	5,366	700	10,550	△62	10,488	△4,359	6,129

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△4,359百万円には、セグメント間取引消去△360百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,998百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2018年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	電子管	光半導体	画像計測機 器	計				
売上高								
外部顧客への売上高	14,100	16,717	3,901	34,719	980	35,700	—	35,700
セグメント間の内部売上高又は振替高	370	236	0	607	181	788	△788	—
計	14,470	16,954	3,901	35,327	1,161	36,489	△788	35,700
セグメント利益又は損失(△)	4,914	5,322	665	10,902	△141	10,760	△4,743	6,017

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、半導体レーザーに係る事業、子会社の㈱磐田グランドホテルが営むホテル事業及び子会社の北京浜松光子技術股份有限公司の独自製品に係る事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△4,743百万円には、セグメント間取引消去△353百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△4,390百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び基礎的研究費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。